

中部運輸局 交通政策部・観光部

平成28年8月30日定例記者懇談会発表



連絡先
 国土交通省 中部運輸局
 交通政策部 消費者行政・情報課 加納、松本
 TEL052-952-8047
 観光部 観光企画課
 小笠原、上井
 TEL052-952-8045

「中部地方における運輸の動き」(トピックス)

昇龍道プロジェクト開始以降の 外国人延べ宿泊者数の国籍（出身地）別推移を分析

中部運輸局では、観光庁が実施している「宿泊旅行統計調査」に基づき、中部運輸局管内及び昇龍道9県（以下、「中部」及び「昇龍道」という。）の外国人延べ宿泊者数等の集計をしております。このたび、昇龍道プロジェクトを開始した平成24年を基準に、平成27年までの外国人延べ宿泊者数における主な国籍（出身地）別推移を取りまとめ、その結果から見えてくる傾向等を分析しました。

【概要】

■外国人延べ宿泊者数の伸び率<<図1～図3>>（平成24年から平成27年までの伸び率で比較）

○昇龍道が全国を上回ったのは、中国（昇龍道416.8%増、全国303.5%増）、マレーシア（昇龍道258.0%増、全国154.9%増）、香港（昇龍道251.9%増、全国197.4%増）、シンガポール（昇龍道232.9%、全国122.9%）、及び欧州（昇龍道203.4%増、全国139.6%増）。

○逆に下回ったのは、アメリカ（昇龍道23.9%増、全国53.3%増）、韓国（昇龍道74.3%増、全国133.3%増）、タイ（昇龍道77.5%増、全国195.1%増）及び台湾（昇龍道120.7%増、全国176.2%増）。

■外国人延べ宿泊者数構成比<<図4及び図5>>

○昇龍道における構成比が増加したのは、中国（平成24年24%、平成27年43%）等。

○逆に減少したのは、台湾（平成24年22%、平成27年17%）、アメリカ（平成24年9%、平成27年4%）、韓国（平成24年7%、平成27年4%）及びタイ（平成24年7%、平成27年4%）。

■総括

○外国人延べ宿泊者数を基にすると、昇龍道は中国に対して強みを持つ反面、特にアメリカ、韓国、タイ及び台湾に対して弱い。

- 中国等の伸び率の高い市場については、航空路線の新規就航・増便の影響、昇龍道プロジェクト及び各県のプロモーションの効果、北陸新幹線の開業等の二次交通整備による効果が考えられる。
- アメリカ、韓国、タイ及び台湾といった伸び率が全国よりも下回っている市場については、航空路線の運休・減便の影響、プロモーション不足に加え、滞在期間が比較的短いアジア諸国の特性を踏まえた商品造成といった課題が考えられる。

○国籍（出身地）別の傾向

【韓国】

平成 24 年からの伸び率<図 1～図 3>では、中部：63.4%増、昇龍道：74.3%増、全国：133.3%増となった。特に、ゴルフ客等の誘致を行った三重県で増加が大きかったが、中部及び昇龍道では全国の増加率に比べて低い伸び率となった。その要因としては、中部国際空港に就航している大韓航空及びアジアナ航空の機材の小型化に加え、済州航空の仁川線の運休（ともに平成 26 年）による影響が考えられる。また、滞在期間が短い韓国人の特性を踏まえ、テーマを絞り込む等工夫をこらした旅行商品の造成も課題と考えられる。

構成比<図 4～図 5>では、中部・昇龍道ともに 7%から 4%（3 ポイント減）となった。

全国に占める割合<図 7>では、中部で 4.2%から 2.9%（1.3 ポイント減）、昇龍道で 5.8%から 4.3%（1.5 ポイント減）となり、他の国と比較しても低い割合となった。

【中国】

平成 24 年からの伸び率<図 1～図 3>では、中部：420.7%増、昇龍道：416.8%増、全国：303.5%増となった。平成 24 年からの伸び率は全市場で一番高く、特に、平成 26 年から平成 27 年に大きく伸びた。その要因としては、平成 27 年 1 月のビザ緩和による影響が大きいと考えられる。中部及び昇龍道では、特に、愛知県、静岡県で増加が大きかったことから、昇龍道プロジェクトの効果と併せて中部国際空港及び富士山静岡空港への直行便の新規就航が相次いだ影響が大きいと考えられる。

構成比で<図 4～図 5>は、昇龍道で 24%から 43%（19 ポイント増）と大幅に増加した。

全国に占める割合<図 8>では、昇龍道で 13.8%から 17.7%（3.9 ポイント増）となり、他の国と比較しても一番多い割合となった。

【香港】

平成 24 年からの伸び率<図 1～図 3>では、中部：250.5%増、昇龍道：251.9%増、全国：197.4%増となった。中部及び昇龍道では、平成 26 年からの伸び率が顕著で、特に、愛知県、岐阜県で増加が大きかった。その要因としては、平成 26 年 9 月に香港エクスプレスが中部国際空港に新規就航した影響が大きいと考えられる。加えて、昇龍道高速バスきっぷ等の受入環境整備の効果も影響していると考えられる。

構成比<図 4～図 5>では、昇龍道で 5%から 6%（1 ポイント増）となった。

全国に占める割合<図 9>では、昇龍道で 6.8%から 8.1%（1.3 ポイント増）となった。

【台湾】

平成 24 年からの伸び率<図 1～図 3>では、中部：97.0%増、昇龍道：120.7%増、全国：176.2%増となった。中部及び昇龍道では全国の伸び率を下回った。その要因としては、滞在期間が比較的短い台湾人の特性に十分対応できていないことが考えられる。

構成比<図4~図5>では、昇龍道で22%から17%（5ポイント減）となった。
全国に占める割合<図10>では、昇龍道で13.4%から10.7%（2.7ポイント減）となった。

【アメリカ】

平成24年からの伸び率<図1~図3>では、中部：0.8%減、昇龍道：23.9%増、全国：53.3%増となった。中部の伸び率がマイナスとなったが、特に、愛知県の減少が大きく、その要因としては、中部国際空港への直行便の減便による影響が大きいと考えられる。昇龍道では、特に、石川県の増加が大きく、その要因としては、北陸新幹線開業の影響による効果が大いと考えられる。

構成比<図4~図5>では、昇龍道で9%から4%（5ポイント減）となった。
全国に占める割合<図11>では、昇龍道で8.4%から6.8%（1.6ポイント減）となった。

【シンガポール】

平成24年からの伸び率<図1~図3>では、中部：164.4%増、昇龍道：232.9%増、全国：122.9%増となった。特に、長野県、石川県で増加が大きかった。その要因としては、各県のプロモーションに加え、北陸新幹線開業の効果が大いと考えられる。

構成比<図4~図5>では、昇龍道で1%から1%（増減なし）となった。
全国に占める割合<図12>では、昇龍道で4.6%から6.9%（2.3ポイント増）となった。

【タイ】

平成24年からの伸び率<図1~図3>では、中部：52.3%増、昇龍道：77.5%増、全国：195.1%増となった。中部及び昇龍道では全国の伸び率を下回った。その要因としては、他地域と比較して昇龍道のプロモーションが不足していると考えられる。

構成比<図4~図5>では、昇龍道で7%から4%（3ポイント減）となった。
全国に占める割合<図13>では、中国に次いで二番目に多かったものの、昇龍道で19.8%から11.9%（7.9ポイント減）となり全国に占める割合では減少幅が一番多かった。

【マレーシア】

平成24年からの伸び率<図1~図3>では、中部：242.8%増、昇龍道：258.0%増、全国：154.9%増となった。中部及び昇龍道では、平成26年に大きく伸びており（中部では302.5%増）、その要因としては、中部国際空港にマレーシアからの初の直行便となるエアアジアXが就航（平成26年3月）した影響が大いと考えられる。しかし、平成27年では、中部管内は平成26年から59.7ポイント減となり、特に、愛知県では平成26年から平成27年の減少が大きかったことから、平成27年2月にエアアジアXが運休した影響が大いと考えられる。

構成比<図4~図5>では、昇龍道で1%から1%（増減なし）となった。
全国に占める割合<図14>では、昇龍道で6.9%から9.7%（2.8ポイント増）となり、増加幅は中国に次いで二番目となった。

【欧州】

平成24年からの伸び率<図1~図3>では、中部：137.8%増、昇龍道：203.4%増、全国：139.6%増となった。特に、岐阜県、石川県及び長野県で増加が大きかったが、その要因としては、各県のプロモーションに加え、北陸新幹線開業の効果が大いと考えられる。

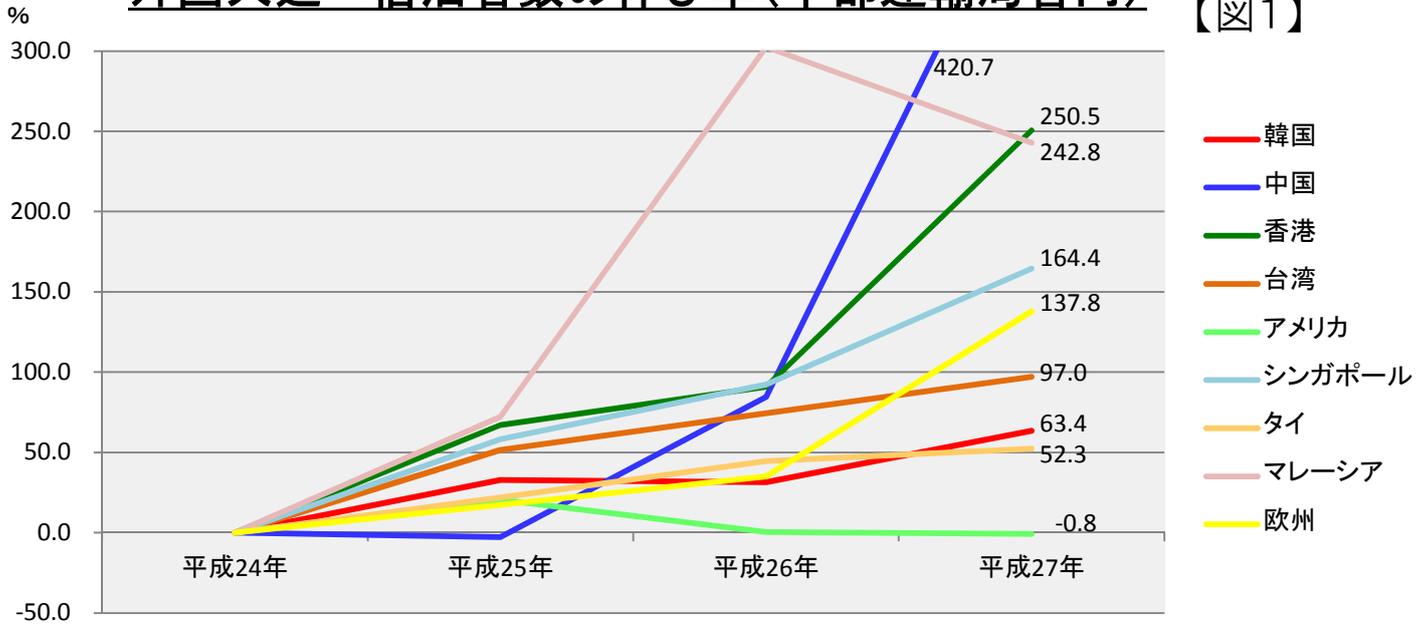
構成比<図4~図5>では、昇龍道で3%から3%（増減なし）となった。
全国に占める割合<図15>では、昇龍道で6.2%から7.9%（1.7ポイント増）となった。

○考察

- ・外国人延べ宿泊者数を基にすると、昇龍道は中国に対して強みを持つ反面、特に、アメリカ、韓国、タイ及び台湾に対して弱い。
- ・中国等の伸び率の高い市場については、航空路線の新規就航・増便の影響が大きいと考えられる。加えて、昇龍道プロジェクト及び各県のプロモーションも大きな効果の一因と考えられる。また、北陸新幹線の開業や昇龍道高速バスきっぷ等の二次交通整備による効果も考えられる。
- ・一方で、アメリカ、韓国、タイ及び台湾といった伸び率が全国よりも下回っている市場については、航空路線の運休・減便の影響も考えられるが、プロモーション不足も否めない。また、滞在期間が比較的短いアジア諸国については、その特性を踏まえた商品造成も課題と考えられる。今後は、プロモーションの強化を図っていくとともに、各国の特性を踏まえた商品造成をより一層推進する必要がある。
- ・中部運輸局としては、この分析結果を踏まえつつ、今後も多くの関係者と協力して昇龍道プロジェクトを推進するとともに、受入環境整備の対応を行う等、官民一体となった取組を進めて参りたい。

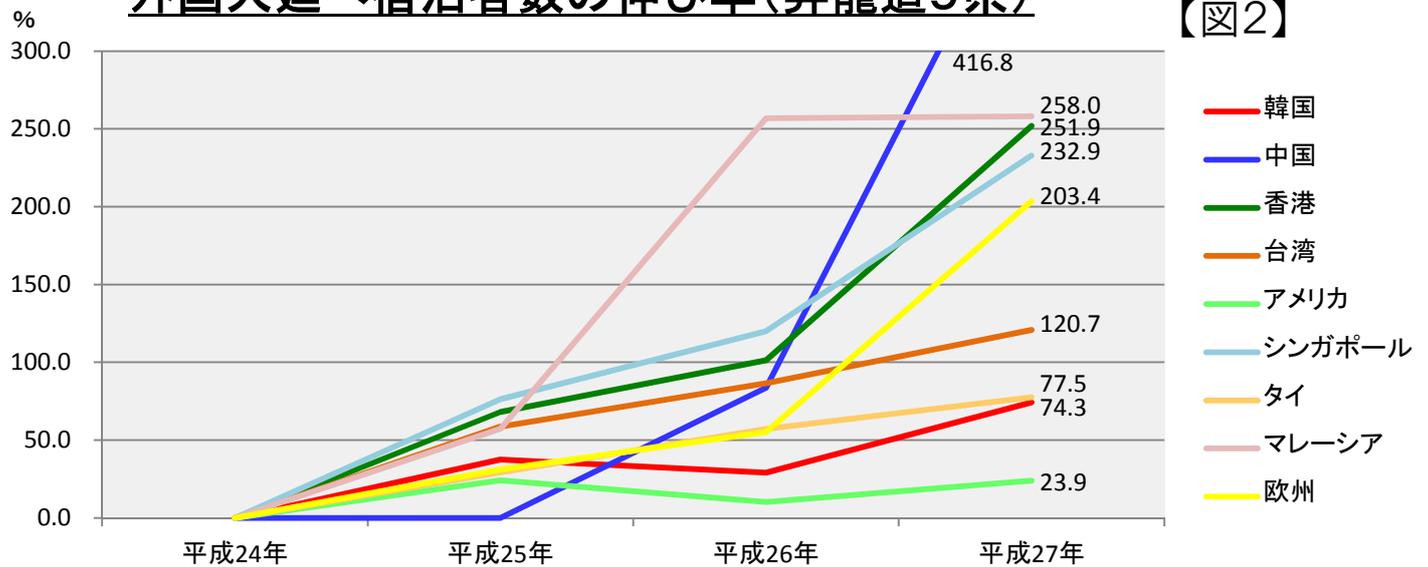
外国人延べ宿泊者数の伸び率(中部運輸局管内)

【図1】



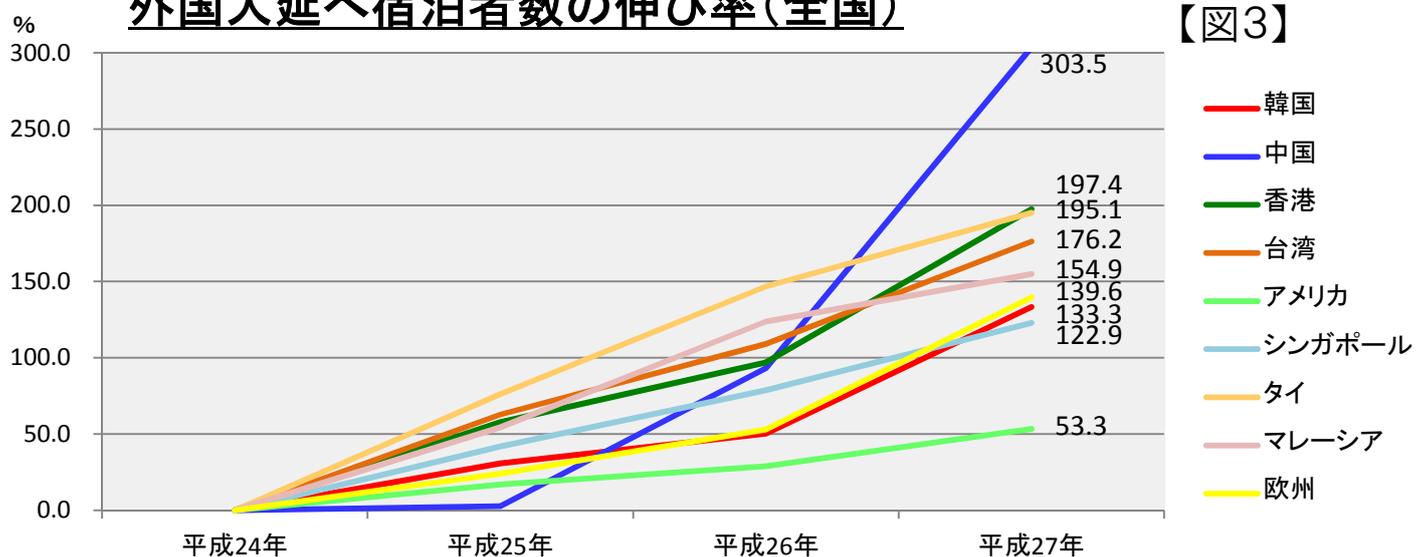
外国人延べ宿泊者数の伸び率(昇龍道9県)

【図2】



外国人延べ宿泊者数の伸び率(全国)

【図3】

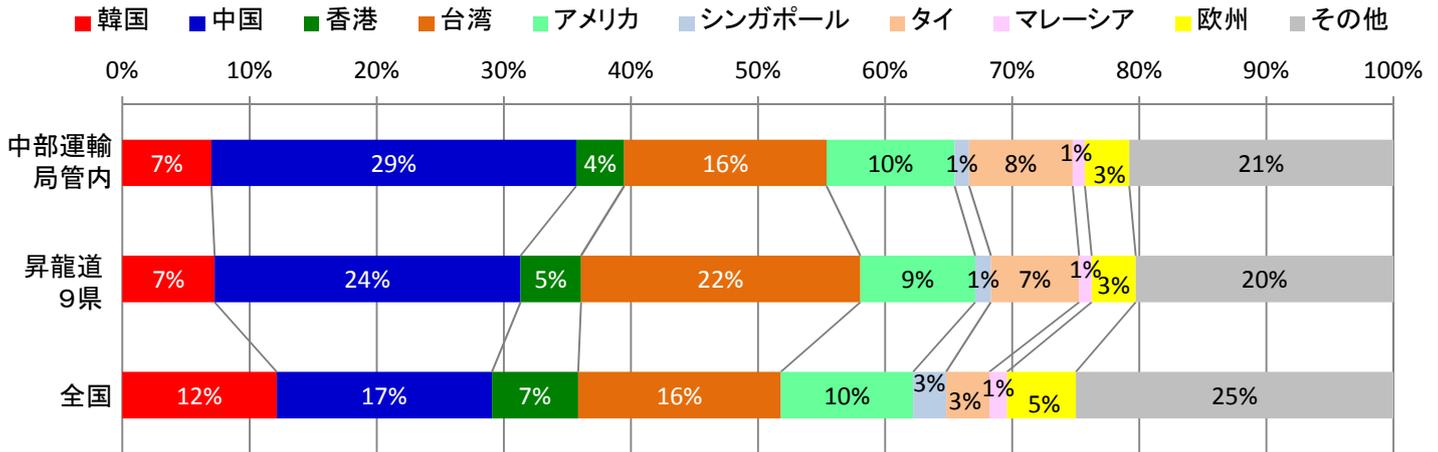


※中部運輸局管内=愛知、静岡、岐阜、三重、福井の5県
昇龍道9県は、中部5県に富山、石川、長野、滋賀を加えた9県

※観光庁「宿泊旅行統計調査」による。

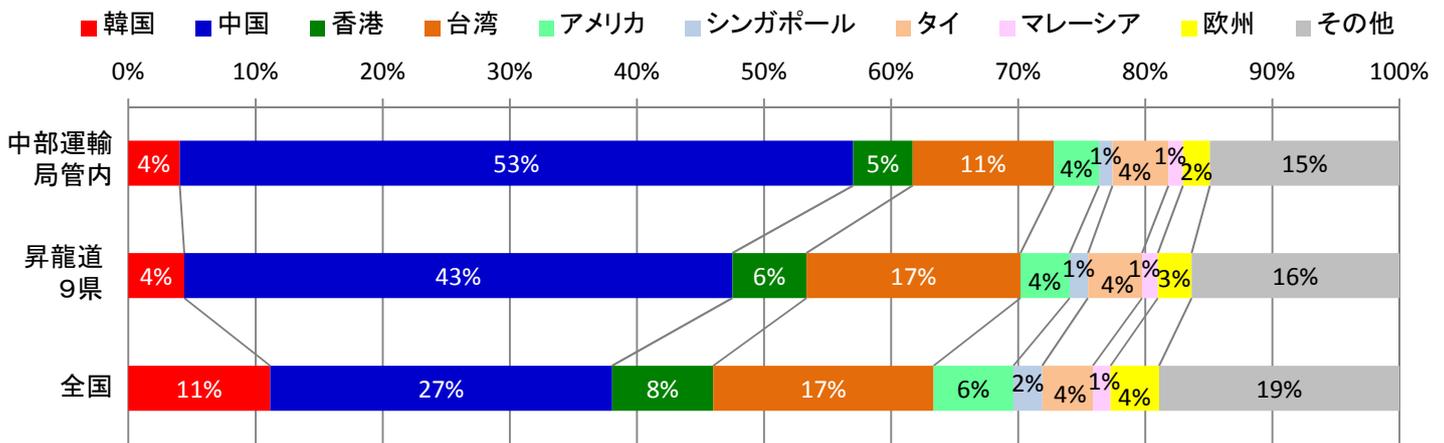
外国人延べ宿泊者数構成比<平成24年>

【図4】



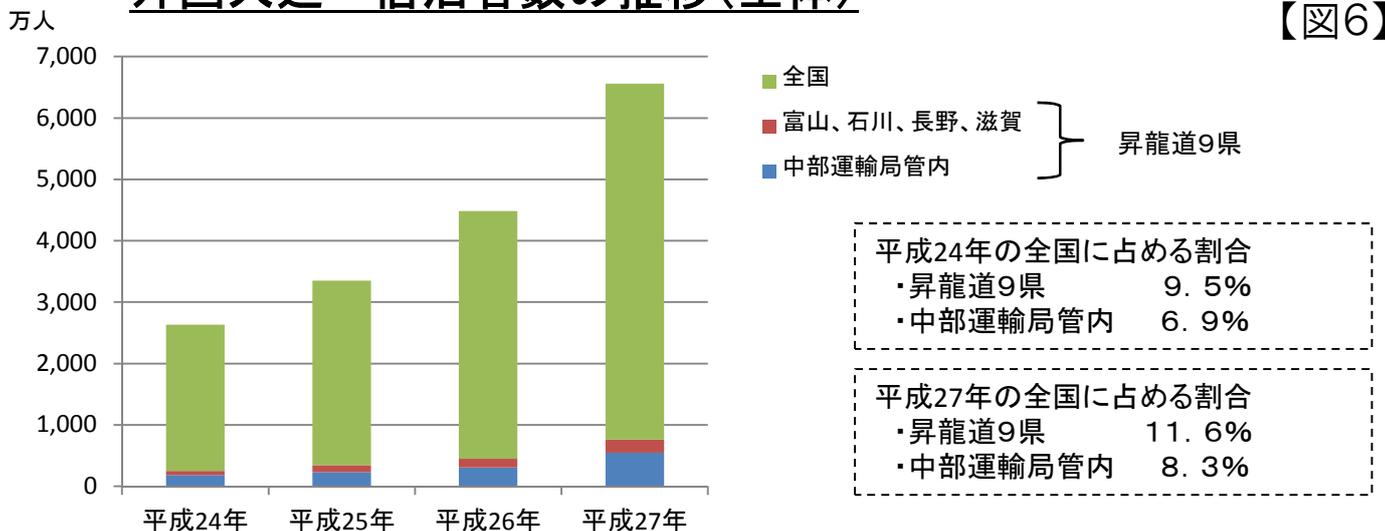
外国人延べ宿泊者数構成比<平成27年>

【図5】



外国人延べ宿泊者数の推移(全体)

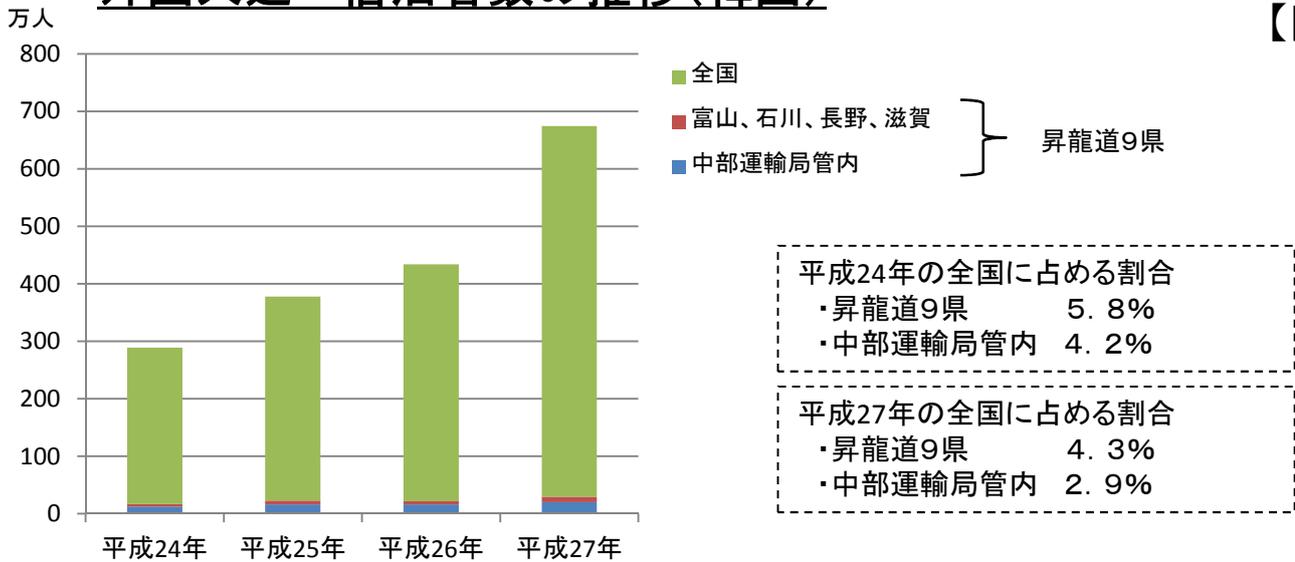
【図6】



※観光庁「宿泊旅行統計調査」による。

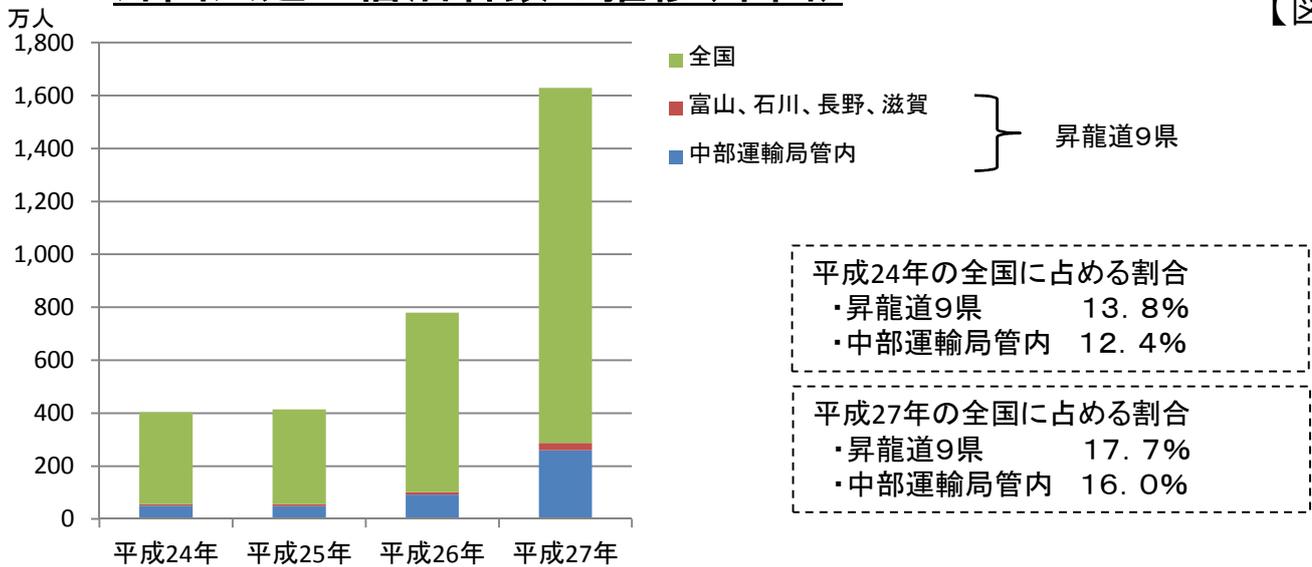
外国人延べ宿泊者数の推移(韓国)

【図7】



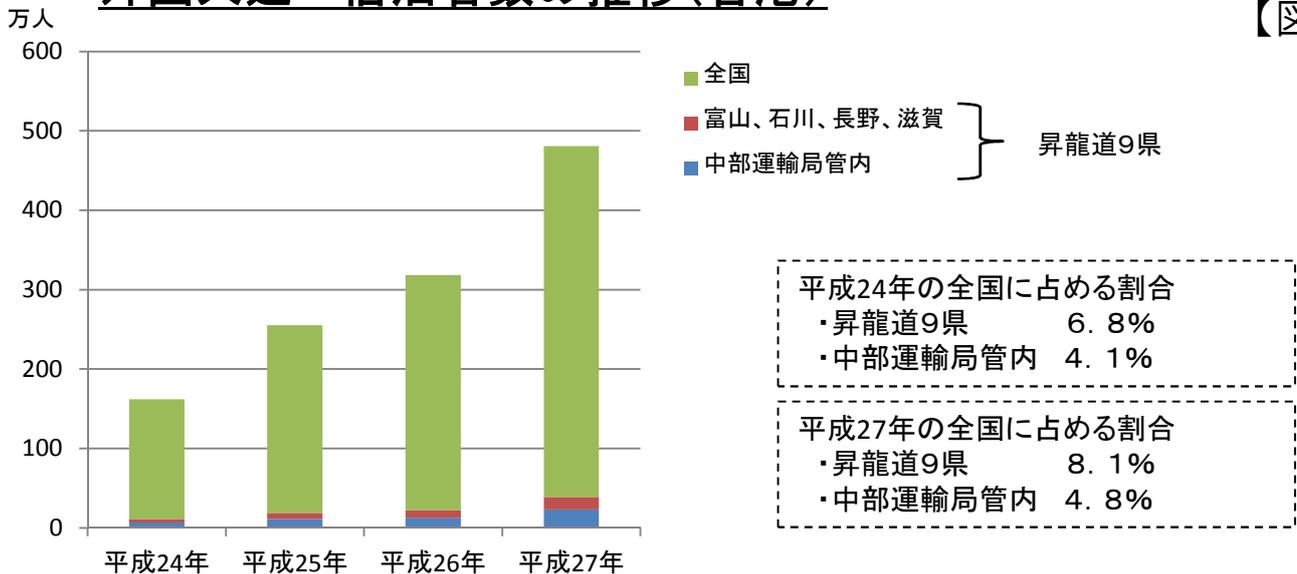
外国人延べ宿泊者数の推移(中国)

【図8】



外国人延べ宿泊者数の推移(香港)

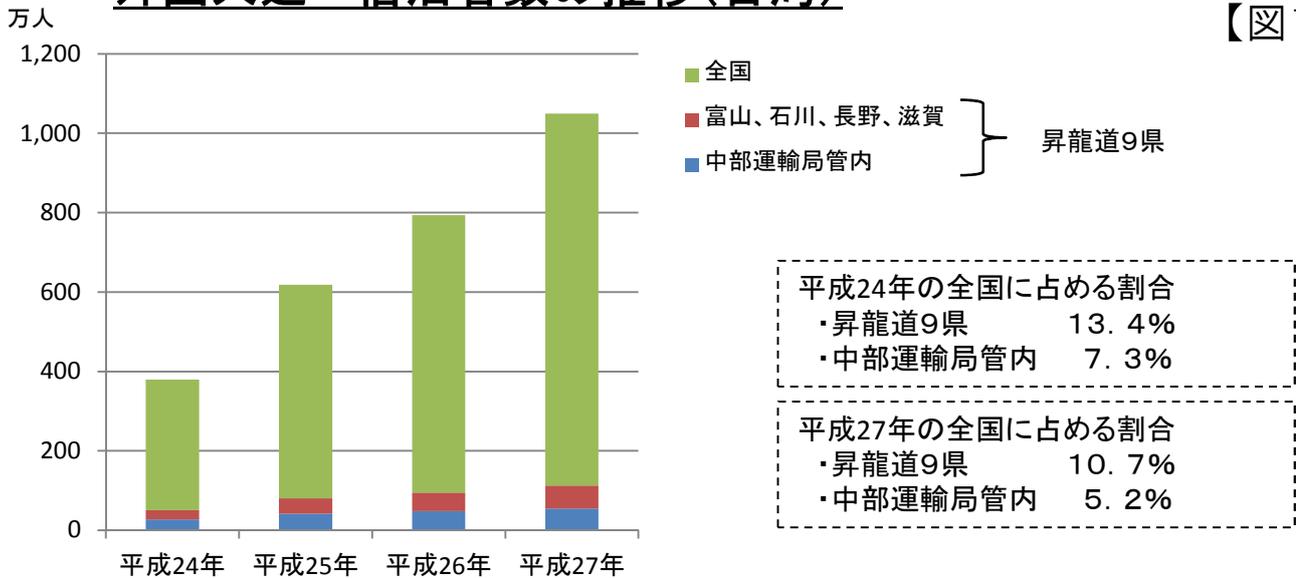
【図9】



※観光庁「宿泊旅行統計調査」による。

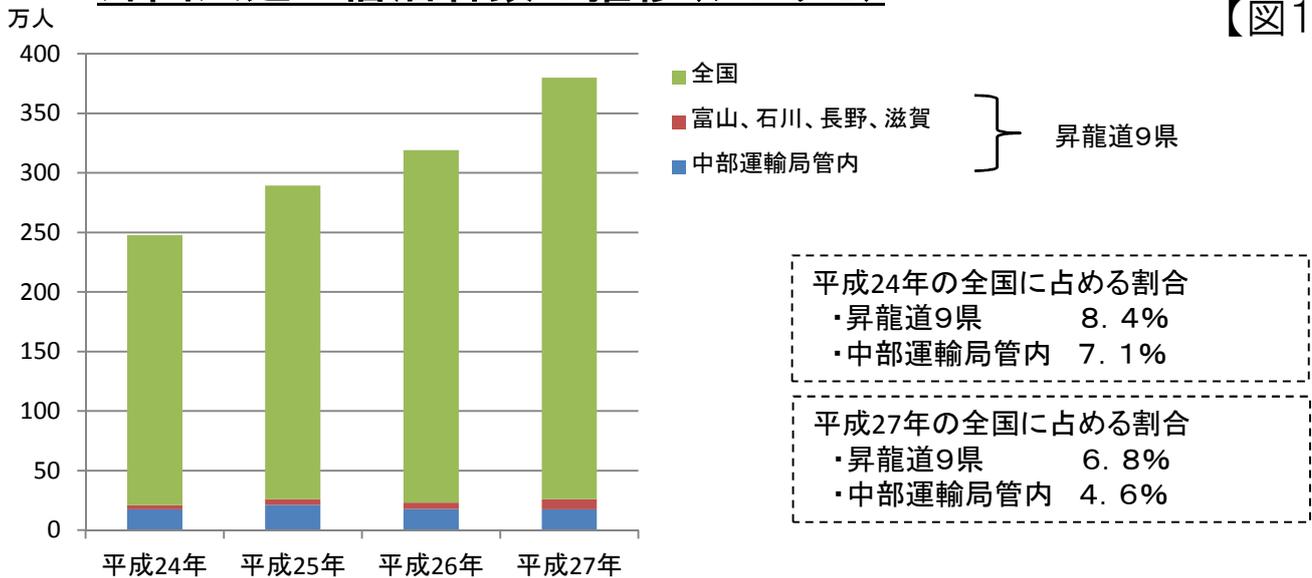
外国人延べ宿泊者数の推移(台湾)

【図10】



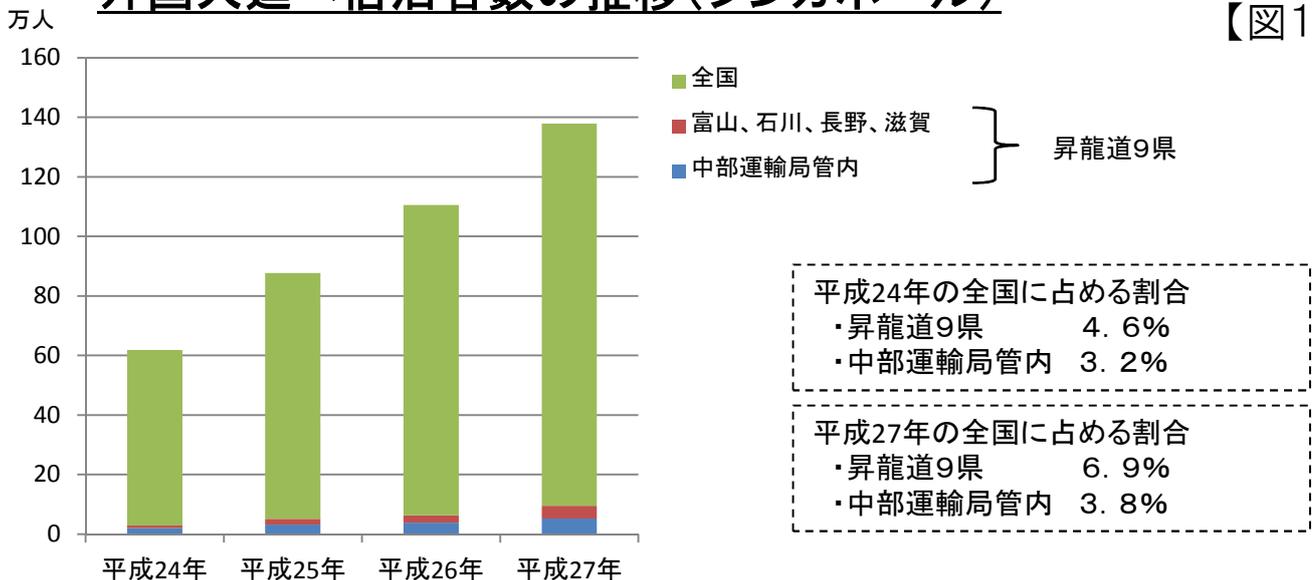
外国人延べ宿泊者数の推移(アメリカ)

【図11】



外国人延べ宿泊者数の推移(シンガポール)

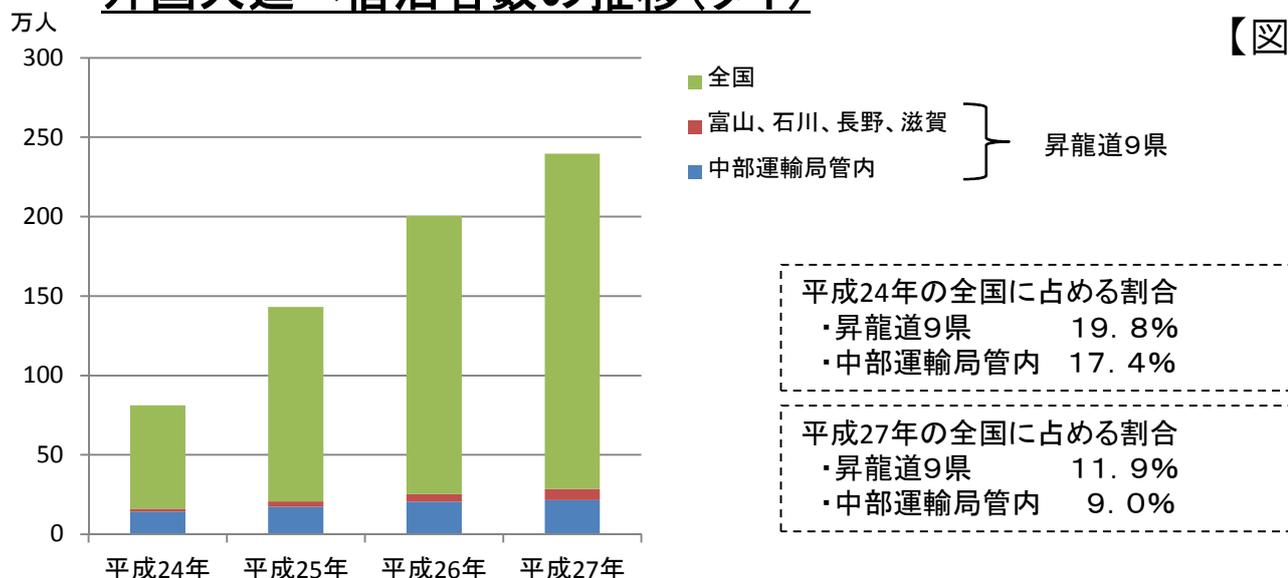
【図12】



※観光庁「宿泊旅行統計調査」による。

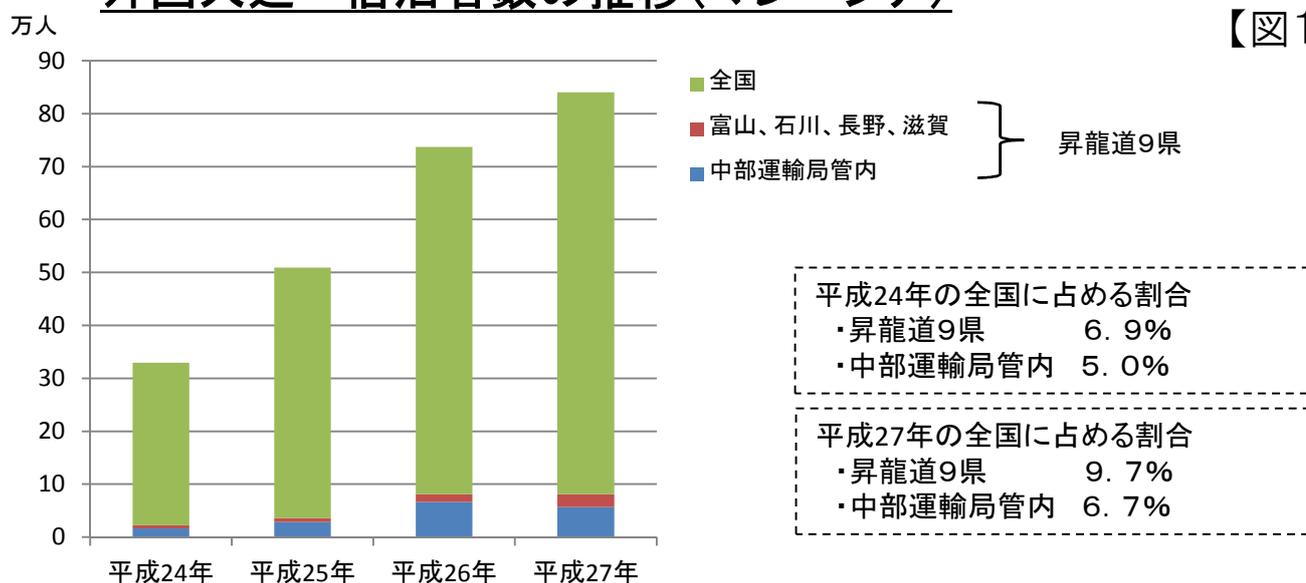
外国人延べ宿泊者数の推移(タイ)

【図13】



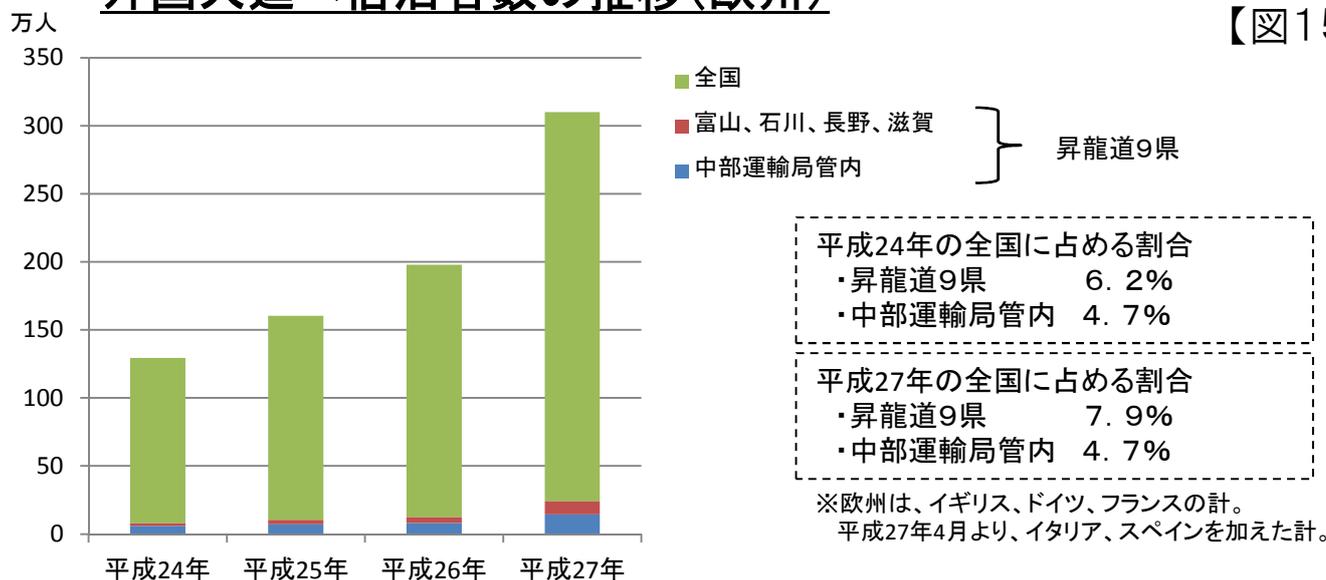
外国人延べ宿泊者数の推移(マレーシア)

【図14】



外国人延べ宿泊者数の推移(欧州)

【図15】



※観光庁「宿泊旅行統計調査」による。